

「彼らの信仰を見て」(要旨)

聖書箇所：マタイ 9:1-8

【1】中風の人とその友人たち

主イエスは「向こう岸のガダラ人の地」(8:28)から、「自分の町」(9:1)カペナウムに戻って来られました。イエスからみことばを聞くため、人々が押し寄せました(マルコ 2:1-2)。みことばを聞き漏らすまいとシーンと静まり返った家。そこに中風の人を連れて来られたのでした。しかも思いも寄らない方法で。後に、中風の人を連れてきた人々は、次のように弁明したことでしょう。入り口まで人々がビッシリだった。やむを得ず家の屋根に穴を開けさせてもらったよ、と。

どんな弁明をしたにせよ、非常識な行為でした。中風の人を運んだ人々は、恥も外聞も無く、一つのことと向き合いました。それはイエスと中風の友を出会わせることでした。彼らは、友をイエスのもとに連れていくためにどうすればいいのか、真剣に考え実践しました。

【2】彼らの信仰を見て

友人たちはイエスの評判を知っていました(4:24)。それでイエスに会わせようとしたのでしょう。床を担ぎ、家の屋根に上り、屋根をはがし、穴を開け、中風の人を寝かせたまま床をつり下ろした。その場は騒然としました。怒った者もいれば呆気にとられた者もいたでしょう。イエスは怒りもせず呆れもせず、彼らの行為をご覧になりました。

「子よ、しっかりしなさい。あなたの罪は赦された」(2)

イエスが注目したのは、穴の空いた屋根でも、騒然とした人々でもなく、「彼らの信仰」(2)でした。

私たちは、信仰とはイエスと私の一対一の個人的なものであると教えます。誰かが自分の分まで信じることを期待しません。自分がイエスキリストと向き合い、自分の救い主として信じ告白することが信仰です。

しかし私たちは自力で前に進むこともできずに、右往左往することがあります。信仰者はそうした時、自分を励まし慰める友の存在によって、前進できたという経験をしているのではないのでしょうか。

▷信仰の成長は、教会の交わりの中で育まれ、豊かにされます。

【3】罪のゆるしと奇跡の関係

イエスは、中風の人をすぐに癒すことをせず、罪の赦しを宣言しました。一介の人間が罪の赦しを宣言することなどできません。神のなさることです。そのため律法学者は「この人は神を冒瀆している」(3)と憤ったのです。イエスは彼らの心の中を「知って」(直訳:見て)、「なぜ心の中で悪いことを考えているのか。『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらが易しいか。」(4)と問い返されました。口先だけで無責任に罪の赦しの宣言ができるならこんな楽なことはない。しかし神の権威によって罪を赦すことは、奇跡を行うよりはるかに難しいことだと。イエスは「人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたが知るために——」(6)と言って、ご自分に罪を赦す権威と奇跡を行う力両方があることを実証されたのです。群衆はそれを「見て恐ろしくなり、このような権威を人にお与えになった神をあがめた」(8)とあります。

▷あなたは、こうした権威を持つイエスをどのようなお方と見ていますか。イエスと共に歩むことそのことが、あなたの喜び、力となりますように。

